



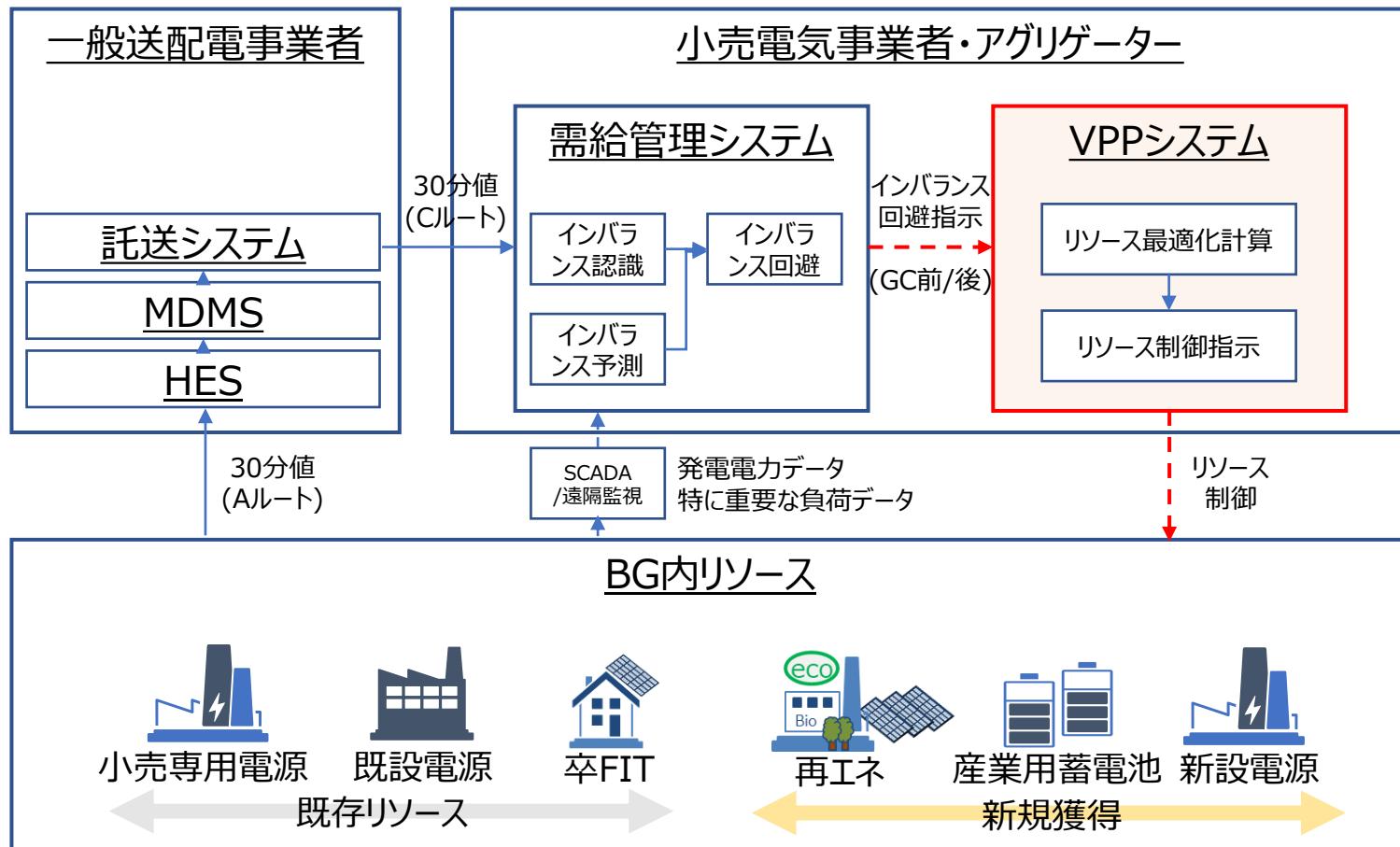
ENEOS

次世代スマートメーターへの期待 (高圧・特高メーター)

2021年 6月 4日

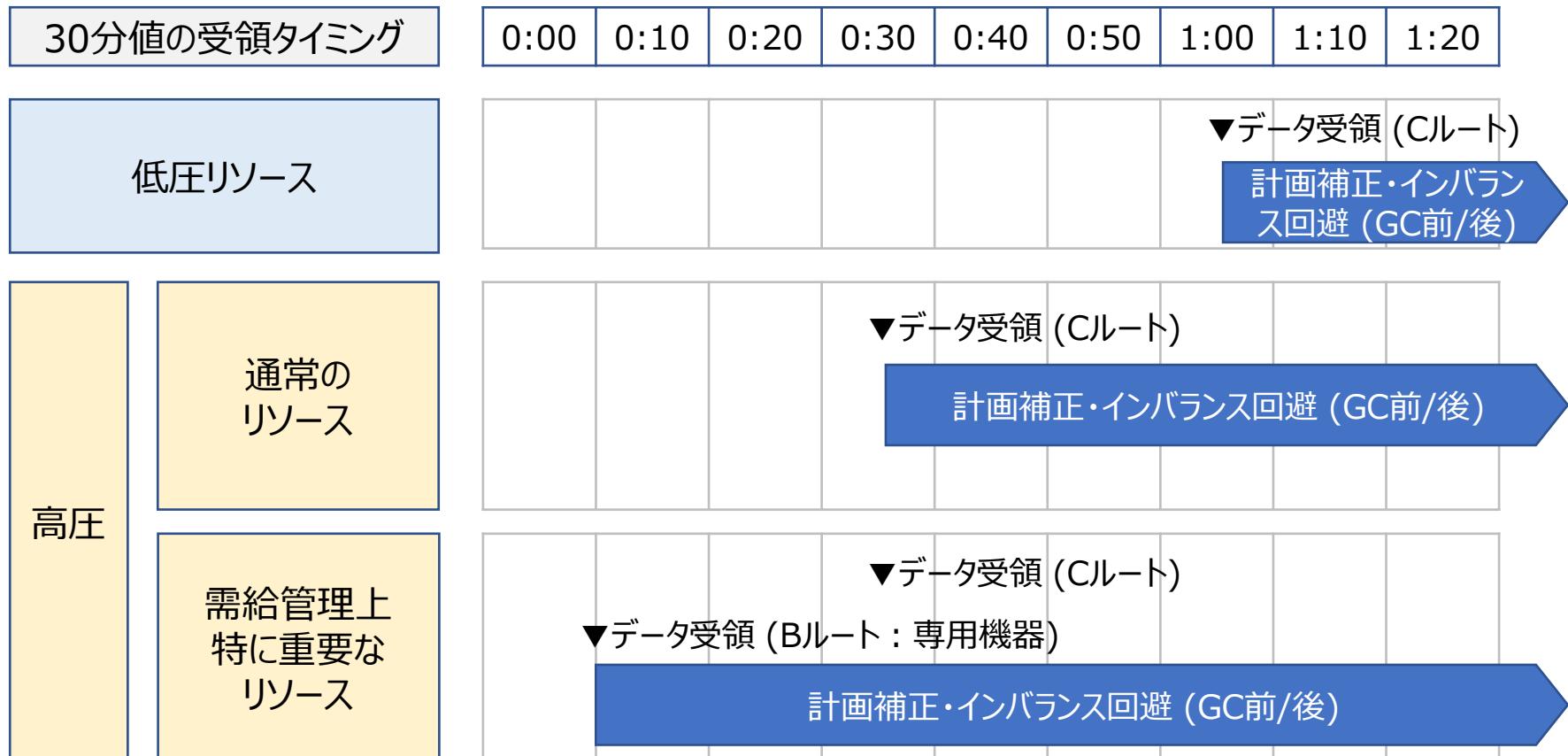
弊社取り組みについて

- 弊社では、供給力確保義務への十全な対応及び再生可能エネルギーの有効活用という観点から、自社BGにおけるインバランス回避を主要なユースケースと位置づけ、**VPPシステム活用を含むBGにおける需給管理の高度化を通じたERAB事業の成立**を目指している。



高圧・特高メーターへの期待①：Cルート連携の高速化

- ▶ 有効電力量Cルート経由のデータ連携が高速化すれば早期にインバランス回避等の開始が可能
(1~15分値について、Cルートまで5~15分程度で提供いただけが望ましい)。
- ▶ 現状では、BG需給管理上、特に重要なリソースについては、独自に通信機器等を設置し、Bルート経由でのデータ連携を実施している。



高圧・特高メーターへの期待②：有効電力量の計量器保存

- 2020年度の次世代スマートメーター制度検討会では、15分値による取引を想定し精算に必要な期間メーターに記録し、ソフトウェア変更により送信データを切り替えられるようにしておくことの可能性が示されたところ。また、低圧Bルートについては、1分値の有効電力量は60分間保存する方針が示されたところ。
- 弊社では、BG需給管理上、特に重要なリソースについては、独自に通信機器等を設置し、計量器から5分程度のリードタイムで有効電力量を取得していることから、高圧・特高メーターについても1～15分値データが計量器に保存されるようになれば、需給管理システムへの細かな粒度での情報連携が実現でき、BG需給管理の高度化につながる。

低圧のCルート連携に関する議論

①「計量器保存のみ」
約163億円



15分値を2コマずつ送信

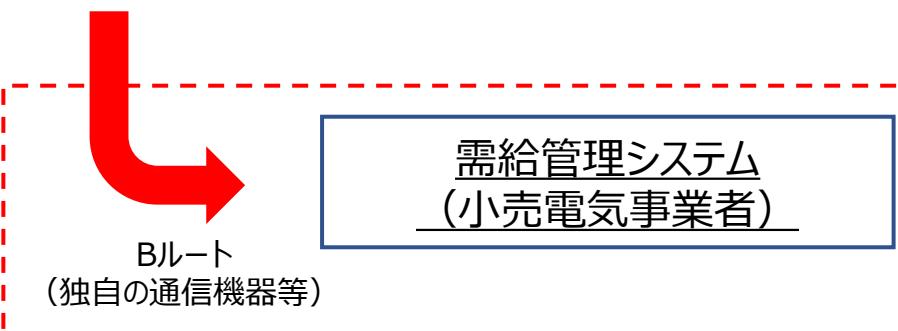
②「MDMSまで送信」
約2,846億円



③「60分以内にCルート提供」
約3,174億円

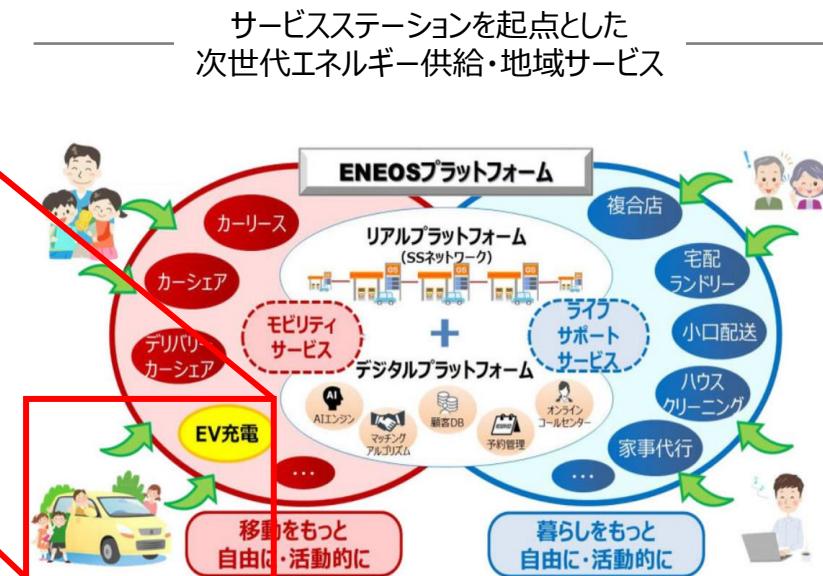


第5回次世代スマートメーター制度検討会
(2021年2月18日) 資料2 より一部抜粋



高圧・特高メーターへの期待③：特定計量データの計量器保存

- 特定計量に関する制度が整備されれば、PV・蓄電池・EV充電器等のデータをスマートメーターに保存するニーズも生じ得ると考えられる。
- 一方で、高圧以上のレベルになると、蓄電池やEV充電器の接続は1台とは限らず、スマートメーターへ特定計量データを保管するとなれば、事業者側が任意にデータ項目を割り当てられるようなデータの持ち方が求められる。
- この点を考慮すると、メーター自体の開発コストが大きくなる可能性もあるため、高圧・特高メーターにおいては、機能肥大化を防ぎ、特定計量に関するデータを収集しないことも一案ではないか。



ENEOSは、グループの2040年長期ビジョンにおいて、サービスステーションを、地域の皆様にモビリティ関連や生活関連のサービスをトータルで提供できる拠点とすべく、SSの生活プラットフォーム化を掲げております。

https://www.eneos.co.jp/newsrelease/20210520_01_01_2008117.pdf